

令和4年度 地区別教育経営・法制研修会（根室地区）記録 記録者 小崎 伸人

日 時	令和 4年 8月 26日（金）		開 催 地	根室地区(中標津町)
派 遣 者	道中 道小	北海道中学校長会 事務局次長（札幌市立琴似中学校 校長） 三浦 英悟 様 北海道小学校長会 研修部幹事（札幌市立清田小学校 校長） 稲上 敏男 様 北海道中学校長会 研修部幹事（札幌市立平岡中学校 校長） 高橋 正幸 様		
参加者数	小中学校 派遣役員	40名 3名 合計 43名	開催形態	小中合同・教育研究会と併催
当 日 の 日 程	13:15～ 13:25 13:25～ 14:15 13:45～ 14:45 14:55～ 15:50 15:50～ 16:00	◇開会式 講師紹介・諸連絡 ◇解説と質疑 北海道中学校長会 事務局次長 三浦 英悟 様 北海道小学校長会 研修部幹事 稲上 敏男 様 北海道中学校長会 研修部幹事 高橋 正幸 様 ◇実践発表 「ドラッカーマネジメントに学ぶ」 別海町立上春別小学校 校長 菅原 晋 ◇グループ協議 ◇閉会式 根室管内小中学校校長会副会長 根本 渉（別海町立上西春別中学校）		
主 な 内 容	<p>■解説と質疑</p> <p>○教育情勢および道小道中の組織と活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三浦事務局次長より ・パワーポイントによる道小・道中の組織編成と主な年間活動内容 ・教育情勢3号を資料に説明 <p>○質問事項の回答（根室地区かの質問はなし、他地区の質問を小中それぞれの関連に分けて回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲上幹事より：コロナ対応、通級指導教室について等 ・高橋幹事より：オンライン授業、校務支援システムについて等 <p>■実践発表</p> <p>発表者 別海町立上春別小学校校長 菅原 晋</p> <p>テーマ 「ドラッカーマネジメントに学ぶ」</p> <p>主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる組織において、共通の見方、理解、方向付け、努力を実現するには「我々の目指す学校像、教師像、児童像は何か。何であるべきか」を定義することは不可欠である。 ・「我々の事業は何か」との問いは、企業を外部すなわち顧客と市場の観点からみて初めて答えることができる。 ・企業（学校）の目的は顧客(子ども、保護者、地域)の創造である。したがって企業は二つの基本的な機能を持つ。それがマーケティング(市場調査)とイノベーション(技術革新)である。 ・「我々は何売りたいのか」ではなく、「顧客が何を買いたいのか」を問う（リサーチを明確にすることが大切）。 ・準備ができていなければ機会は去り、他所へいく（常に見通しを持ち、複数プランを持って仕事をする教師を目指させる）。 ・仕事を生産的なものにするには、①分析、②総合、③管理の三つのものが必要である。 <p>■質疑応答 なし</p>			

<p>グ ル ー プ 協 議 よ り</p>	<p>○グループ1（大規模小学校） 《組織を機能させるために》目指す姿を整理し全員で点検するチームをつくる。 《理想の学校へ》全ては子どもの変容と子どもの主体を目指して取り組む。「変化していく子どもをみていることが楽しい教師」を再認識させる。 《ゴールとなる子どもの姿を共有》ルートは多種多様であるが目指すゴールは同じ。</p> <p>○グループ2（中規模小学校） 《目指すことの共有》～目指す子ども像を教職員で検討 《ポジション、役割》～ベテラン教諭からの指導のさせ方、関わらせ方が課題 《教諭の「やりたいこと」「やり甲斐」》～年齢層に応じた自己有用感を高める。（若手、ミドルリーダー、ベテラン教諭） 《Cに於いて》良さを共有する。教職員間で共有し、次の課題を認知する。</p> <p>○グループ3（小規模小学校） 《考えるきっかけ作り》「その子の成長の為に・・・」を問う。 《目的の共有》月毎の経営重点を示し方向性を示す。 《評価》否定的な評価はしない 《環境》相談・フォロー・メンターで互いに高め合う。教員同士の繋がりを意識して。</p> <p>○グループ4（義務教育学校・小中学校） 《小中併置校、義務教育学校》「教職員の経営参画意識をつけるために校長としてすべきこと。」 《積極的交流》小と中の文化の差を埋めていくことが大切。そのために分掌の部長と副部長を前期（小）と後期（中）からそれぞれ割り当てる。</p> <p>○グループ5（大規模中学校） 《経営参画意識の高揚》先生方への声かけを大切にする。校長、教頭、主幹で役割に応じた声かけを（課題のある教諭への声かけ、若い先生への声かけ、分掌への声かけ、授業みてプラスのアドバイスなど） 《傾聴姿勢》先生方の意見や提案を受け入れる方向で取り入れて進めていく。</p> <p>○グループ6（小規模中学校） 《経営参画意識の高揚》校長がRVのビジョンを持ち、Cを意識して職員に投げかけていく。 → 教職員のPDCA参画意識が高まっていく。</p> <p>○グループ7（中規模小学校） 《経営参画意識の高揚》「教師の中の多様性」を共通理解 ～ 個々の能力に差があることを理解し共通認識することで、ベテラン教諭が様々な年齢層の教諭を認め、若手も安心して発言できる職員室の文化を構築していく。 《3つのリスクマネジメントの必要性》 ・メンタルが弱い教職員へのリスクマネジメント ・授業技術力が弱い教職員へのリスクマネジメント ・問題行動を起こしがちな職員へのリスクマネジメントなどを校長が意識することが必要。</p> <p>○グループ8（中規模中学校） 《経営参画意識の高揚》「先生方の主体性を生かす」 《PDCAサイクルの在り方》 ・計画性 ～ 生徒と共につくる目標設定 ・チェック ～ 学校評価の結果を分掌で対応させる ・早めのグラントデザイン提示(十月頃) ～ 学校評価等を元に分掌で改訂し作り上げる。 ・PDCAを浸透させるために ～ 日々「意義目標」等を意識させ続ける。</p>
<p>ア ン ケ ー ト よ り (抜粋)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道小、道中の解説により、今後の根室管内の状況が想定できるため、いつも参考にさせていただいています。 ・行政からの見解を改めて聞けるなど、私たちのズレを修正するのに役立ちました。 ・他町の校長先生とも情報交換ができ、とても有意義な時間でした。 ・集まる意義と言うことを実感できる大会となりました。 ・グループ協議が大変学びの多い機会となりました。 ・この先に一貫教育に関する課題が生じても、管内の学校間のネットワークによって解決できそうだという安心感を持ちました。 ・今後も感染対策をしっかり行い、会同とリモートのハイブリッドで、より良い校長会の運営を行えればと思いました。 ・同規模の学校で取組を交流することができ、互いに取り組むべき課題がはっきりとさせることができ、意義のあるものでした。 ・この先に一貫教育に関する課題が生じても、管内の学校間のネットワークによって解決できそうだという安心感を持ちました。 ・ポストコロナ時代にも継続できるスリムで内容の濃い研究大会だったと感じました。

